

社会福祉法人  
日本医療伝道会  
Japan Medical Mission  
http://www.kinugasa.or.jp/

# KINUGASA

Volume.40 Issue.6

～「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」マタイによる福音書25章40節～

## 第423号

### 私は奇跡を信じます

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。  
その名はインマヌエルと呼ばれる。」  
この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。  
マタイによる福音書 一章二三節



日本基督教団  
広島教会  
牧師 武田真治

皆さんはサンタクロースの存在を信じておられますか？ 私の娘はもう二十歳を越えています。私が、サンタクロースは本当にいると今でも思っています。なぜだと思われませんか？

それは、彼女が小さい頃、クリスマス・イブの夜に、サンタさんのソリの鈴の音を本当に聞いたからだそうです。だから「絶対、サンタさんはいる」と今でも言います。そして、またいつかサンタさんと会えるといいなとも言っています。

私がお話を聞いていて思いましたことは、サンタさんを信じている人のところにはサンタさんが来てくれるのだなというのと、逆に、サンタさん

信じていない人のところには、サンタさんが来るはずがないのだなあということでした。

聖書が告げているイエス様のお誕生の時には、いくつかの不思議な出来事が起こったと書かれています。天使が現れたり、夜空の星が自由に動いたり、そして『おとめ（処女）マリヤより生まれた』という出来事などはその際たるものではないでしょうか？

これを常識では考えられないから「うそだ」と考える人もいますし、また逆に、この出来事の真実性を科学的に実証しようとしている学者もいます。

でも、私が思いますのは、救い主イエス様の誕生そのものが実は常識はずれの「奇跡的な出来事」なのであり、そのことを聖書は色々な形で伝えようとしているのではないかということです。

従って、クリスマスの出来事

を前にして、私たちが自分自身に当てはめて考えるべきことは、神様の起こされる「奇跡」というものがあることを信じるかどうかではないかと思うのです。

あなたは「奇跡」というものを信じておられるでしょうか？ 私は「奇跡」なんて信じないという方ももちろんたくさんおられるでしょう。でも、信じていないながらも、心のどこかで、自分の人生にも「奇跡」が起きないかなあと願っているようなところがあるのではないでしょうか？

棚からぼた餅のように幸運が自分の上に降ってこないかなあといつもどこかで待っている気持ちがありはしないでしょうか？

でも、「奇跡」を信じていないのに自分にも奇跡を起こしてくれるというのは無理です。奇跡が起こったら奇跡を

信じるよというのには矛盾しています。なぜなら、実際に奇跡が起こったとしても、奇跡を信じていなければ、それを神様が起こしてくれた奇跡とは認められないからです。はっきり言えば、奇跡があることを信じていない人の上には奇跡は起こらないのです。

現在、私は牧師になって二十五年目を迎えています。しみじみ本当に不思議なことであるよなあと思うことがたくさんあります。それを「奇跡」というか、単なる偶然と考えるかどうかで、単なる偶然と考えるかどうかで、自分の人生にも「奇跡」は起こり得ると考えて生きる方がステキではないでしょうか？何もないと考えて生きるよりも、少なくとも「奇跡」を信じなければ「奇跡」は起きないのですから。



# ～ 地域と共に ～



社会福祉法人 日本医療伝道会  
法人事務局長 古屋修身

一九四七年地域の医療を担うために衣笠病院は設立された。二〇〇七年八月に六十周年を迎えました。病院創立精神「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」を決して忘れることなくスタッフは守り続けてまいりました。隣人愛の精神であり全人医療の実践です。病院の運営は、様々な困難の連続であり、決して順風満帆ではありませんでした。しかしながら、常に社会状況に合わせたニーズに応じてきました。即ち、初期の頃の総合的医療や「お産の衣笠」といわれるように産科の中核病院として評価を受けました。その後、救急医療、地域医療の推進、高齢化社会到来に対応すべく、特別養護老人ホームの開設、訪問看護を主体としたケアセンターの開設、中間施設の老人保健施設の開設、ホスピス病棟の開設、在宅医療の開始、そして健康管理センターの開設です。急激なる超高齢化社会時代の変化の中で、それまでの医療から介護・福祉が分離されてきました。けれど、そうした中でも私達の衣笠病院を常に支えてくれたのが、地域の各種団体、商店街、そして病院の後援会でした。病院人だけでここまで六十年の歴史を刻んできたのではないことを私達は決して忘れてはいけなと思っています。

六十年は人間で言えば還暦です。原点に戻ると言って良いでしょう。衣笠病院が古稀を迎える創立七十年までのこれからの十年はどうあるべきか考えてみたいと思います。

## 基本姿勢

第一に、何と云っても創立精神の隣人愛のミッションをこれからも常に基本姿勢でいくことです。とりもなおさず全人医療実践です。

第二には、病院を主体にした衣笠病院グループとしての介護・福祉・保健の各事業所の一体的連携の推進です。

第三には、衣笠病院グループに求めてくる患者様・利用者様に各施設は何らかの方法を見出して何とかして受け入れに伝えていくことです。救急医療、総合福祉の推進です。そのためにもスタッフ同志のチームワークはとても大事なことになります。

第四には、これはとても大切なことですが、地域と共にあることの強い認識と使命感です。地域のニーズに応じていくことが、当院の設立いきさつからしても重要なことです。

第五には、どこの病院や施設にも負けない、患者様、利用者様に対し、優しい病院、暖かさを感じる施設であるべきです。

これからの十年、社会は高齢化社

会のピークを迎えます。国の財政負担増による、医療費の削減、利用者負担増は益々大きくなります。そのためグループの経営はより厳しくなり、相当なる創意工夫と覚悟が必要となります。従来の病院の主体

は変わりませんが、予防・介護・福祉へのニーズが益々増え、医療がフォローしていくことがより必要となってきます。典型的なあり方として在宅医療への取組みのあり方です。



# これからの10年

## 具体的取組み

### ① 創立精神の継承

創立精神を基盤としたキリスト教主義病院はボランティアリズムが重要です。「人からして欲しいと思うことをその通り人にする」隣人愛の実践です。キリストの愛を伝えていく、ミッションの実践です。どんな厳しい医療環境になろうとも、私達の使命である、全人医療・全人介護の実践は常に継続していかなければなりません。

私達の社会的使命である地域医療をこれからの十年も推進していくことは変わりありません。

全人医療実践にはスタッフの創立精神の理解とチームワークが大切です。そしてスタッフだけでは、高齢化社会への対応は限界があります。これからも地域の支えが必要です。病院や衣笠病院グループの各施設はスタッフのためだけに存在するものではありません。患者様・利用者の皆様のために存在するのです。だからこそ私達は全人医療の創立精神をきちんと捉え、ミッションの役割を担っていくべきです。

### ② 救急・急患の積極的受け入れ

何と言っても痛みやケガで今すぐ初期治療が必要な患者様に積極

的に対応することです。

### ③ 地域医療機関・介護施設との連携

病院や介護施設は入院や入所を主体とした役割を担うべきであり、衣笠病院グループだけで、全てを解決することには無理があります。そうした面で地域のクリニック・福祉・介護施設との連携は不可欠です。これからの外来診療のあり方は、初診外来・救急外来・検査外来・専門外来・紹介外来に特化されてゆきます。

### ④ 緩和ケアの充実

ホスピス病棟だけでなく、多くの入院希望待機患者様に応えるためにも、一般病棟に緩和ケア対応病棟の創設が必要となってきます。

### ⑤ 在宅医療の積極的展開

在宅医療取組みに理解のある医師や看護師が増えてきており、従来の施設に来ていただく医療や介護から、医療人が地域社会に積極的に飛び込んで行く実践が必要となってきます。

### ⑥ 小児科・産科の再生

日本の医療体制の歪みで、衣笠病院のブランドでもあった産科の閉鎖、小児科の非常勤医師体制の診療を余儀なくされている現状です

が、何とかして産科の復活、小児科の充実に継続して取組みます。

### ⑦ 研修教育病院の取得

高度な医療や病院を提供していくためにも、優秀なるスタッフが集まる、魅力ある病院づくりが必要です。研修教育病院の取得を目指します。

### ⑧ 老人保健施設の拡充

療養型病床の削減が進む中、高齢者の介護受け入れからも当老健施設（五十床）の拡充が必要となります。病院と一体となった医療強化型老健を実践してきた、当衣笠ろうけんの拡充は時代のニーズにマッチしていきます。

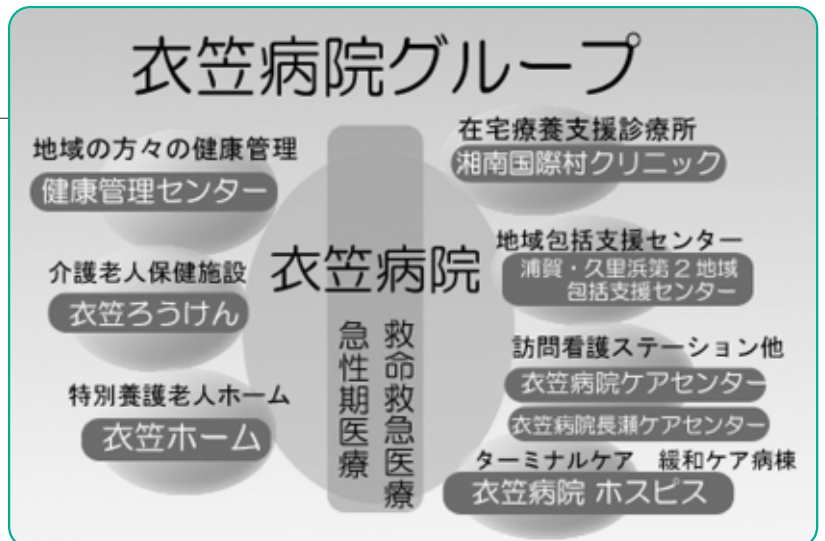
### ⑨ ボランティアの充実

衣笠病院は早期からボランティアの受け入れをしており、患者様や利用者の皆様から高く評価を受けております。核家族化の進む社会環境の中、少しでも患者様を支えていくボランティアの働きは大きな力となります。当院のボランティア養成講座を通して、さらに

### ⑩ 後援会組織の拡大

衣笠病院は過去、火災による全焼など何回かの危機があり、その都度地元の有志の方による後援会の熱い応援により救われ、今日の六十周年を迎えることができました。そうした面から、より多くの協力者が大切であり、後援会の拡充が求められます。

多くのボランティアを受け入れていくことが大事です。



## ～ 衣笠病院に望むこと ～



横須賀市社会福祉協議会

会長 藤原尉夫

衣笠病院創立六十周年誠におめでとございます。

衣笠病院は、横須賀における医療の中核病院としてはもとより、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、ホスピスなど幅広い福祉分野にも進展され、今では保健・医療・福祉の総合的な施設として発展を続けられており、関係者の皆様のご努力に心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、現在は地域の問題は地域で解決するという考えの地域福祉の充実が叫ばれておりますが、この点におきましても衣笠病院は先駆的に実践され、地域の人々の期待を担っております。しかしながら地域の福祉ニーズは益々多様化しております。貴病院におかれましては、今後ともキリスト精神に基づく衣笠病院らしさを堅持され、地域の人々のニーズに適切に対応し、愛され、信頼される地域福祉の中核施設として益々発展されることをご期待申し上げます。終わりに、ご関係の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



第一衣笠町内会

前会長 大野静枝

創立六十周年の諸行事、大変盛大に楽しく終了しましたことを、お慶び申し上げます。

私の衣笠地区の生活は病院とほぼ同じ年齢だと、病院に深く親近感をいただきました。

私が衣笠小学校へ赴任したのが、病院創立一年後、四十年の教員生活、そして、来年は定年後二十年で病院と同じく六十周年を迎えるわけです。今振り返ると、色々な思い出がよみがえってきました。病院が火災にあった際、冬休みの最後の日、緊急出勤の連絡で、体育館に移動した患者さんの名前とか案内図などを書くお手伝いに励んだことなど……

また、私は白内障で病院にお世話になり、現在もお陰様で眼鏡をかけなくても、不自由を感じず、とても感謝しています。

心から期待することは、産婦人科を復活していただき、次代の子供達にこの衣笠地区を益々発展させる様祈ります。



衣笠商業連合会 会長

玉寿々 加藤吉彦

私は、約三十五年前に商店街の役員を受けてから商店街活動の幾つかある基本の一つ「地域密着型」を心してきました。地域との関わりを維持することは土地っ子の強みであり、特典でもあると気付いたからです。歳と共に広がる地盤ですが、未だ大勢の方々との関係を大切に、時には指導を受け、時には後押ししていただき顔馴染が故に相談ができたり、連携して活動したこともあります。

衣笠病院も同じことが言えるのではないかと思います。地域の病院として多くの方々の方々の心身のより処医療機関として六十年は偉大な足跡だと思います。一般事業所と違い、地域に根ざして信頼され続けるには大変な難問が次から次へあるうかと思えます。ましてやこう言う世情です。日

進月歩の医学の研鑽は勿論形に出ない安心、信頼倫理などの勉強も大切な課題ではないかと思えます。過去の長い貴重な経験を生かし地域の頼れる病院として邁進していただきたいと思えます。地域住民が誇れる衣笠病院へ。



衣笠商店街(有)わかまつ靴店

代表取締役 召田博万

衣笠病院、創立六十周年おめでとございます。

一九四七年(昭和二十二年)八月一日に誕生、誠に長生きにあたり、保健・医療・福祉の総合的施設に、今日地域社会になくはならない病院となりました。財政的にも困難な時もあり、何度か存立の危機にも立たされたと思いますが、皆様が頑張つて今日あるのだと思います。

私も衣笠商店街にて約四十年商売をしています。最近特に衣笠にお買い物に来てくれるお客様が少なくなりました。商店街の役員も頑張っているのですが、時代の変化についていけません。今日の頃です。病院の経営も商店の経営も一緒だと思います。特に病院は、いい先生が少しでも長くいて、患者さんを診てくれれば病院は必ず患者さんで、いっぱいになります。これから十年二十年地域に必要な病院で在り続けてください。期待しております。

# 地域の方々の声



横須賀市立衣笠小学校  
校長 石渡悦子

本校には、時折衣笠病院と間違っ  
て来校される方がいます。それは、  
本校が衣笠病院に隣接していること、  
学校の前に衣笠病院の駐車場がある  
こと、道路に面している場所に校門  
がないためと思われる。中には、  
本校の受付名簿にご記入くださって  
から「ここは衣笠病院ではないんで  
すか。」とお尋ねになる方もいらして  
「違いますよ。衣笠病院は…」とお教  
えする場面も幾度かありました。

先日、私事で衣笠病院に受診する  
機会がありました。健康だけがとり  
えのような私ですから、総合病院の  
受診は本当に久しぶりで、入口で戸  
惑っておりますたら、ボランティア  
の方が温かく対応してくださいまし  
た。その日も沢山の患者さんがいま  
したが、先生方も看護師さんたちも  
明るくてきばきとお仕事をしてい  
らして、大変さわやかな気持ちにな  
りました。

本校には、五百名程の児童がおり  
ますので、怪我や病気などで衣笠病  
院にお世話になる機会も多いので  
すが、いつも親切な対応に感謝して  
います。これからも、お隣の病院とし  
て、本校の児童をよろしくお願いい  
たします。



ボランティア「衣の会」  
会長 田端小太郎

衣笠病院は地域のための患者様  
中心の全人医療が評価されて病院  
機能評価で認定更新が授けられ、  
患者様満足度調査では、「とても良  
い」「良い」との評価が全部門にお  
いて九十%以上に達しているとの  
ことです。関係者の日夜の労苦に



ボランティア「結衣」  
代表 山本律子

「いと小さき者のために」

：私の祈り

衣笠病院グループのボランティ  
アとしての活動は、特別養護老人  
ホーム 衣笠ホームの開設と同時  
に始められた洗濯物たみみのボラ  
ンティアとして参加して三十七年、  
病院受付案内ボランティアが二十  
四年、ホスピスボランティアとし  
て研修を受けて加わらせていただ  
いて今年十年目に入ります。不  
思議な導きによって私は今「気が

感謝すると共に地域住民の一人と  
して大変誇りに思っています。申し上  
げることもございませんが、最新  
施設や先端医療、診療科目の拡充  
もさることながら、「衣笠病院へ行  
けば何とかしてもらえらる」に応じ  
られる懐の深さなど、安心できる  
時間と空間に対するソフト面での  
対応の維持向上を希望します。そ  
してもし、ボランティア活動がお  
役に立つことがあるとするなら、  
各位のご理解のもといままでも同様  
に活動を続けさせていただきたい  
と思っております。

付けば衣笠病院のボランティアを  
していた」の心境です。この活動  
の中で衣笠病院を心から愛してお  
られる大勢の良きお仲間との出会  
いがあり、お金には替えられない  
たくさんさんの賜物をいただいでいる  
ことに感謝で一杯です。

私は三人の子供と、孫のうちの

五人が衣笠病院で生まれました。

当時の産科の婦長さんが戌の日の  
帯に朱色の筆で大きく「寿」と書  
いてくださったこと、退院の日チ  
ヤブレンが母の腕の中の赤ちゃん  
に神様の祝福を祈ってくださいた  
時の感動、決して忘れることはで  
きません。衣笠病院に新しい命の  
誕生の喜びの音が満ち溢れるとき  
が一日も早くきますように心から  
の祈りです。



外来ボランティア

代表 渡辺恭子

病院のご理解のもとにボランティ  
アをさせていただいている立場をい  
つも感謝しております。

年々高齢化して先細りの外来ボ  
ランティアなので、地域に根ざし  
た病院として、若年層へのボラン  
ティア募集を積極的になければ  
と思ひます。

病院の方針、機構の変化など、  
病院とボランティアとの連絡の流  
れをよくすることも大切なことと  
しよう。

病院との勉強会を行って、ボラン  
ティアの質の向上に努めていきたく  
と思ひます。

病院の入口に立つボランティアと  
しての責任の重さを自覚して、これ  
からも皆様のために微力をつくした  
いと願っております。

## 患者様、ご家族、スタッフに受け入れられての活動 ～ ボランティア「衣の会」～

私たち『衣の会』のそもそものは、一九九三年六月、故山本敬衣笠病院長のもと、お二人のチャブレンを指導者に迎えて開講された『こころを聴くボランティア養成講座』にあります。講座修了者によって翌年『衣の会』が誕生し、東館二階外科病棟でのお茶サービスが活動の第一歩となりました。加え

て現在は、衣笠病院ホスピスロビーでのお茶サービス、ベッドサイド、東館や本館病棟での活動、そして、講座の実習の場でもある衣笠ホームにボランティア活動の場が与えられております。

初期のベッドサイドは、スタッフから要請の連絡を受けて対応していたのですが、毎日要請があるわけではなく、また夜の要請の時もありました。それでもボランティアをさせていただく心が、暗黙のうちにつながったのでしょ



か、一度も欠かさずに一年続きました。しかしボランティアが今のようには理解されていない時でしたので、自主的に研修を行い「マッサージ」にも臨みました。気づくと、スタッフから声をかけられることも度々となり、五年が経っていました。スタッフを受け入れてくださり、患者さ

んが受け入れてくださり、さらにご家族に受け入れられてボランティアができていことに感謝で一杯でした。

それからは夢が希望に変わり、徐々に実現して今に至っているわけですが、忘れてはならないことは、人の思いや技術や知恵によるのでは

なく、大きな大きな力が私たちに臨んでくださり、私たち一人ひとりを通して今日の活動、これまでの歩みすべてを実現させて下さっているということ。いつの時も、小さな者たちの上に大きな助けがあったことを深く憶えて感謝するものです。

### 「衣の会」の一員になって

「衣の会」はこの度、日本医療伝道会殿より感謝状を贈呈されました。「衣の会」の会員の一人として大変誇りに思い、本当に名誉な事と深く御礼申し上げます。

「心を聴くボランティア」の響きに惹かれ、全十回の養成講座を受け、「衣の会」に入会して、四年になる。施設側のご理解のもと、病棟と福祉施設でお茶のサービスとお話相手をさせていただいています。

「あなた誰、何しに来たの、何も話することなんかないから帰って」とおっしゃられる方、「痛い、痛い、苦しい、死にたい」と訴えられる方、傍に座らせていただくとうすぐらに堰を切ったようにお仕事や趣味について話される方、あるいは誰にも話せない身の上を話され、すっきりしたとおっしゃられる方。「ここのお茶はおいしい。お茶の日を楽しみにしている」とおっしゃっていただける方、退院後にわざわざお礼に見えにられる方。ロビーが賑やかにいすぎて、隣室の患者様からクレームをいた

だいたり。

患者様が、刻々変わる病態に感じ、様々な姿勢を示されるのは当然のことです。

勇気をいただいたり、落胆したりの繰返しです。無償の奉仕に注文はしないという風土的土壌に甘えて有難迷惑になっていないだろうか、と迷いつつ。

月一度の会話検討会でのスーパーバイザーからのご指導の他、一日研修会や泊研修会で学習は続けているものの心を聴くことの難しさを痛感する日々です。

私にも入院の経験があります。医師、看護師やスタッフはもとより見舞に来てくれた職場の仲間や家族に支えられる一方、売店のお姉さんやお掃除のおばさん達の何気ない語り掛けに心を癒されることが少なかつたことを覚えています。私も出来ればこの方たちのように、患者様がほっと感じられるような存在でありたいと願っています。患者様とスタッフのご理解に支えられ、諸先輩に導かれて。

## 衣笠病院で一緒に働いてみませんか



衣笠病院 皮膚科  
主任医長 菅谷和江

衣笠病院は三浦半島の中央に位置する地域の病院です。病院の中にチャペルがあり、牧師が常勤でいて、パイプオルガンもありますが、クリスマスチャンであることを強制されることはなく、自然体に、(信仰心を持った職員の方が日本の平均的なキリスト教徒の割合からすると多いか)にこやかな方が多く働いているようで、ホットとした空気があります。



しかも、実際に利用される方には病院の宗教は全く関係なく、仏教徒もイスラム教徒も無宗教の方も来院されています。そして、総合病院(ホスピス病棟を含む)と、健康管理センター、ケアセンター、訪問看護ステーション、在宅療養支援診療所、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など、広い範囲をカバーする社会福祉法人のグループで、地域と深くかかわりを持って、地域医療と密接に結びつき、大病院とは違い、下駄履きで利用される地域の病院です。(健康管理センターでは、人間ドックを実施しているため、職員健診も半日人間ドックで、いろいろ調べてもらえます。忙しくて、自分の健康管理も難しい身には、ありがたいです。)

コ・メディカルのスタッフも気持ちよく、中規模の病院のメリットで顔見知りの仕事仲間と風通しよく仕事ができます。医局の医師の平均年齢は三十歳代後半です。若いスタッフが多く仕事しています。保育園もあり(学童保育までカバーしています!)子供がいても安心して継続して働けます。

地域医療やホスピス医療などをもつ総合病院で一緒に働いてみませんか。

## 患者様、先輩と様々な人に支えられて



衣笠病院 本館4階病棟  
主任補佐 永山幸恵

私が衣笠病院に就職し今年で十年になります。十年の間に、看護婦が看護師になり、紙カルテが電子カルテになり、病院機能評価も二度経験しました。そして今年、主任補佐になり、師長やもう一人の主任補佐と共に、病棟の管理に携わっています。私が衣笠病院に就職しようと思つたきっかけは今でもよく覚えています。

当時、看護学生だった私は、学校の先生に衣笠病院を紹介され、病院オリエンテーションを受けるため、初めて衣笠病院の門をくぐりました。きれいなステンドグラスの正面玄関を入り、大きなパイプオルガンの前で、看護部長室を探そうとキョロキョロしていた私に、すぐ声をかけてくれたのは、ボランティアの方でした。初めて横須賀線に乗り、行ったことのない横須賀の病院で、そのように声をかけてくれる方がいたことは、緊張していた私にとって、とても嬉しいことでした。困った人がいれば、自然に誰かが声をかけフォローする病院、そんな印象を受け、就職することに決めました。

就職してからの十年は、あっという間でした。先輩、患者様と、様々な人に支えられ、教え

ていただき、人としても看護師としても成長することができました。そして、今は教育委員やNST(栄養サポートチーム)と様々な立場で、後輩や学生の育成やフォロー、患者様の看護の質の向上はもちろんのこと、大変な入院生活を安全でよりよいものにしていくための役割を担っています。

衣笠病院の理念「来てよかった病院」は患者様だけのフレーズではありません。これからも主任補佐として、一先輩として、これから就職されてくる方にも「来てよかった病院」と思ってもらえるように頑張っていきたいと考えています。ぜひ一緒に働きましょう!

## 問い合わせ先

衣笠病院総務人事部

担当：山本・志水

☎ 046-852-1182 (代)

☎ 046-852-1490 (直通)

<http://www.kinugasa.or.jp/>

E-mail : [soumuka@kinugasa.or.jp](mailto:soumuka@kinugasa.or.jp)

# クリスマス・年末を迎えて ご支援のお願い

衣笠病院グループの機関紙「衣笠」をお読みいただきありがとうございます。

本年八月一日に衣笠病院創立六十周年記念行事が行われました。この六十年振り返ると共に、これからは地域と共にある病院、地域の患者や利用者のニーズに応える衣笠病院グループの施設でありたいとの思いをアピールされました。

当後援会は昭和三十五年衣笠病院火災後の復興を願って始まった会です。高齢化する地域住民にとって、安心して利用できる施設・病院であり続けるよう後援会もまた、支援の輪を拡げたいと思います。

衣笠病院グループの働きに、皆様方の温かいご支援を賜りますよう、お願いいたします。

二〇〇七年十二月

衣笠病院福祉医療後援会  
会長 市川 潔

衣笠病院福祉医療後援会

- 会長 市川 潔
- 副会長 齊藤篤美 松山慶三
- 監事 島崎一也 召田博万
- 評議員 赤池和治 生野隆彦
- 井出智三 久保田寅吉
- 熊沢満夫 古敷谷美津江
- 小林 俊 中村昌弘
- 平川 清 松野正樹
- 顧問 木村重雄

後援会事務局  
〒238-8588 横須賀市小矢部 2-23-1  
社会福祉法人日本医療伝道会  
電話：046-852-6256  
郵便振替口座：00220-2-13963  
振込用紙を準備いたしましたので  
ご利用ください。

記事中の写真は全てご本人様の承諾を得て掲載しています。

## 健康講座

- 12月 15日(土) 13:00~  
第69回 糖尿病の運動療法  
講師 中村 修
- 1月 21日(月) 14:00~  
第70回 元気な足の作り方  
講師 三井つた恵  
\*都合により日時などを変更させていただきます

## 糖尿病教室

- 12月 13日(木) 14:00~16:00  
食事療法・栄養指導・糖尿病の検査 他
- 1月 10日(木) 14:00~16:00  
食事療法・栄養指導・薬物療法 他

## パイオルガンミニコンサート

- 12月 15日(土) 15:00~ (第三土曜日)  
第144回 演奏 山口みどり
- 1月 26日(土) 15:00~  
第145回 演奏 高関 麗



## クリスマス

～「神さまが共おられる」ことの証し～

今年も、衣笠病院グループの各施設では、わたしたちの命の営みが神さまと共にあることを信じ、クリスマスをお祝いします。

- 病 院 患者様やご家族と共に、フルートの演奏も楽しみ
- ホ ス ピ ス 静けさと和やかさの中に包まれながら過ごすひととき
- 衣 笠 ろ う け ん 今年もできるかな?職員の演奏によるハンドベル
- 衣 笠 ホ ー ム 芸達者な人たちのパフォーマンスの連続!!!
- シ オ ン 保 育 園 ナースのお母さんを応援する天使たちの声と笑い
- 法 人 ク リ ス マ ス 「ハレルヤ・コーラス」が響く、職員の集い
- 長 瀬 ケ ア セ ン タ ー 25日に最高潮を迎えます。トリを飾るのはここ!



## 編集後記

食欲の秋も過ぎ長い冬に入ろうとしております。本年で、冬に入る前の準備として、体内脂肪が蓄積されているこの頃です。でも今年の自分は例年とは違います。今年の七月に心疾患の異常で、心カテ施行、異常が見つからず一先ず安心。以前からメタボ体型で管理栄養士から指導が入っていたにも係らず、暴飲暴食の日々を過ごして来た報いが体に異変を起こしていたのです。今は食事指導を受けながら、禁酒し出来るだけ運動を心がけています。たまに酒を飲んでしまっっては反省の繰り返し。衣笠病院も六十年の歩みを過ぎました。私も六十才まであと数年。やはり体が資本、ダンスを始めて十年、定年後も社交ダンスで健康維持に力を入れていきたいと思っています。私の仲間、六十才過ぎの方がほとんど、でも姿勢は良いしバイタリティに富んでいます。皆さんも健康に気を付けて、今年を乗り越えてください。追伸 社交ダンスには、十種類の競技があり、モダン部はワルツ、タンゴ他三種、ラテン部はルンバ、サンバ他三種です。(Y・S)

衣笠 第423号  
〒238-8588 横須賀市小矢部2-23-1  
社会福祉法人 日本医療伝道会  
理事長 井口 延  
電 話 (046)852-6256(法人)  
振替口座 00220-2-13963